

大浦総合研究所

大浦勇三 著

続・ビジネス梁塵秘抄（一）

学・献・遊

遊ぶは仕事、仕事は遊ぶ
遊ぶは仕事、仕事は遊ぶ
仕事は学び、学びは仕事
仕事は学び、学びは仕事
学ぶは遊ぶ、遊ぶは学ぶ
学ぶは遊ぶ、遊ぶは学ぶ

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まりました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

**遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さへこそ動がるれ。**
（岩波文庫版）

が有名です。

二〇一二年から二〇一四年の三年間、「ビジネス梁塵秘抄（一）〜（十）」全一〇巻（九〇〇ページ・二七〇〇文）を刊行させていただきました。この三年間で日本はもとより、世界の景色は大きく変わりました。日米欧を中心に、それまで国や地域を支えていたさまざまなインフラ・制度の劣化が散見されるようになっていきます。財政の悪化をはじめとして、改革のためのルール・規制が複雑化し、身動きがとれなくなってきたこと、国民一人ひとりが能動的・自覚的に課題を解決して自律するという意識が衰退し、国や周囲への依存意識が強くなっていること、などが指摘されています。

日本人は三・一一で、あり得ないことも起こること・見たくないものは観えないこと・すべては変わることを経験しました。一方、世界では二〇四五年問題が浮上、一台一〇〇〇ドル程度のPCの情報処理能力が全人類の能力を超えたとの予測も台頭しています。人工知能が人間の意思を介さずに仕事をする時代の予感。人工知能を敵ではなくパートナーとして連携しながら、人間の思考力・発想力を強化すべきという課題。人工知能は舗装道路では強力でも、石ころだらけの砂利道では人智の出番も多いはず。世界が合理的・効率的な方向に動き、その大きな流れに太刀打ちできない以上、やりたいこと・やれること・やるべきことの重なる領域を徐々に広げながら前進するしかありません。ドラッカーだけでなく、ピカソからアインシュタインまでを内包するのが二一世紀の経営学。固有の文化・価値観を生かしたイノベーションには組織文化風土の深耕がものをいいそうです。

本書は、「ビジネス梁塵秘抄」に続き、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する深い思いを無我夢中で纏めさせていただきました。重ねてご寛恕ください。

東京・神楽坂にて

大浦 勇三

遊

遊びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● 日本語は論理性がないというのがそうともいえない
日本語は日本的に論理的なのであるとの見立ても
国文学と英語の両方をやることで初めて判る視点
背広・ネクタイ姿が紳士だという発想を破棄する

● これからの世の中はこれまで以上に何が起ころかわからない
それこそ、何でもかんでも想定外と逃げるわけにはいかない
今後どうなるかわからない中で決断の土台になるものは何か
専門領域に限定されない総合力 教養は教養として学べない

● ブレイクスルー 前例がない時に手続きや事業をどう確立していくか
まず ニーズや需要を文節化する・異なるタイプの商品群の並行開発
現行技術と新規技術の並列・多くの委託契約・複数の研究所との連携
情報の共有と遮断・戦略が技術を生むとの発想 技術とは心中しない

献

仕事をせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

●カルロス・ゴーン改革 9つのプロジェクトに分解 それをプログラムとして統括プロジェクト間連携 リーダーは禁じ手の二人制 クロスファンクショナルチーム従来のプロジェクト・マネジメントだけでは、複合プロジェクトには対処できない価値創造プロセスに向け知を重視 ルール厳守に拘るのでなくルールの精神に則る

●エンロンの影 ブローカーでなくマーケット・メーカーへの重心移動が墓穴を掘る エネルギー・サービスからエネルギー取引へ 新規事業が株式時価総額の九〇％に CEOは裸の王様、自分はわからないと言えぬ悲劇 あらゆるものを商品にと豪語 利益操作による不正会計 トップが多様なファイナンス手法に無知なることの無惨

●戦略が技術を生む 戦略がないとは重要性に気づきながらアプローチをしないか 重要性そのものに気づいていないか 原子力船むつは需要表現がされることなく作業だけ進行、原子力動力プラントを備えた船舶 宇宙・南極・ゲノムも二番手 悪い戦術は良い戦略があれば救える 悪い戦略は良い戦術では絶対救えない典型



学びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● 抽象という言葉 ビジネスの世界ではずっと否定的に使われてきた
本来、論理的整合性や矛盾を明確にするうえでは不可欠なプロセス
複雑系の時代とは抽象化の時代 想像力こそが威力を発揮する時代
最初は誰でも無我夢中で興奮 熱気が冷めた時にも自分を持つ必要

● 帝王ヘルベルト・フォン・カラヤンが語る指揮者の要件とは何か
何より、楽団メンバーとの関係性を重視 メンバーを招き入れる
指揮命令でなく 指揮棒のもとで一糸乱れず音楽を創り出す営み
指揮者が奏でる世界へ メンバー・聴衆を招待することに徹する

● OECD（経済協力開発機構）ミレニアムを迎え二一世紀の人材像を提示
第一に未知の状況の中でそこの課題を発見・設定・解決・展開する能力
次に異文化／異質な組織や他者との間で、適切に関係性を構築できる能力
最後に、やるべきことを優先順位付けし持続的・効率的に学習できる能力

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.mm.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「ビジネス梁塵秘抄（一）～（十）…（全十巻）」（大浦総合研究所）
- ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
- ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
- ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語会）
- ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
- ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか

その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「続・ビジネス梁塵秘抄（一）」（抜粋）

著者 大浦勇三

二〇一五年六月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四三

○大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。